

2020年6月22日 「性犯罪に関する刑事法検討会」ヒアリング

# 心理学的知見に基づく

# 子どもの供述特性と司法面接

立命館大学 総合心理学部

仲真紀子

<http://forensic-interviews.jp/>

m-naka@fc.ritsumei.ac.jp



# 概要

1. なぜ子どもは特別か
  - » 被暗示性と精神的二次被害
2. 司法面接の概要
  - » 自由報告と構造
3. 参考：法廷での子どもの証人

Nichd Protocol: National Institute of Child Health and Human Development (米国立小児健康人間発達研究所)で作成された事実確認のための面接法。ダウンロードは<http://forensic-interviews>から。

# 1. なぜ子どもは特別か？

— 供述弱者である大人も —

## 被暗示性と精神的二次被害

# 世界の事例

Ceci & Bruck, 1995等

- クリーブランド事件 (UK)
- マクマーチン事件 (米CA)
- ケリー・マイケルズ事件 (米NJ)
  - ≫ 1988年, 4歳児の発話から有罪に。
  - ≫ 1994年, すべての事案が棄却。
- リトルラスカルズ保育所事件 (米NC)
  - ≫ 1989年, 90人の子どもが虐待を訴え, 有罪に。
  - ≫ 1995年, 判決が翻る。

Ceci, S. J. & Bruck, M. (1995). Jeopardy in the courtroom: The scientific analysis of children's testimony. Washington, D.C.: APA.等

## ある判決文から・・・

- 以上の経緯からすれば、・・・他の事情により信用性が支えられない限り、〇〇らが暗示や迎合により体験していない事柄を供述した疑いを残すというほかない（捜査機関が当初の聴取の際、児童らに暗示・誘導なく自ら話してもらい録音録画し、母親からも供述を始めた状況を誘導なく詳細に聴取して録音録画するなど、真に暗示・誘導がないのであれば、その信用性を担保する方法は存在する。）

# 典型的な事例

面：××に叩かれたことある？

子：・・・

面：〇〇さんから聞いたんだけど。怒らないからちゃんとお話して。××，叩くの？

子：・・・

面：××叩くの？

子：（小さくて聞き取れない）が当たった。

面：どこ叩かれたの？

子：肩。

面：いつ××が叩いたの。

子：・・・

面：お話ししてくれないと、たいへんなことになるから。もう一回聞くとよ。××が叩いたのね。

子：（小さな声で）うん。

問題を導入

クローズド質問

繰り返し

圧力

言い換え

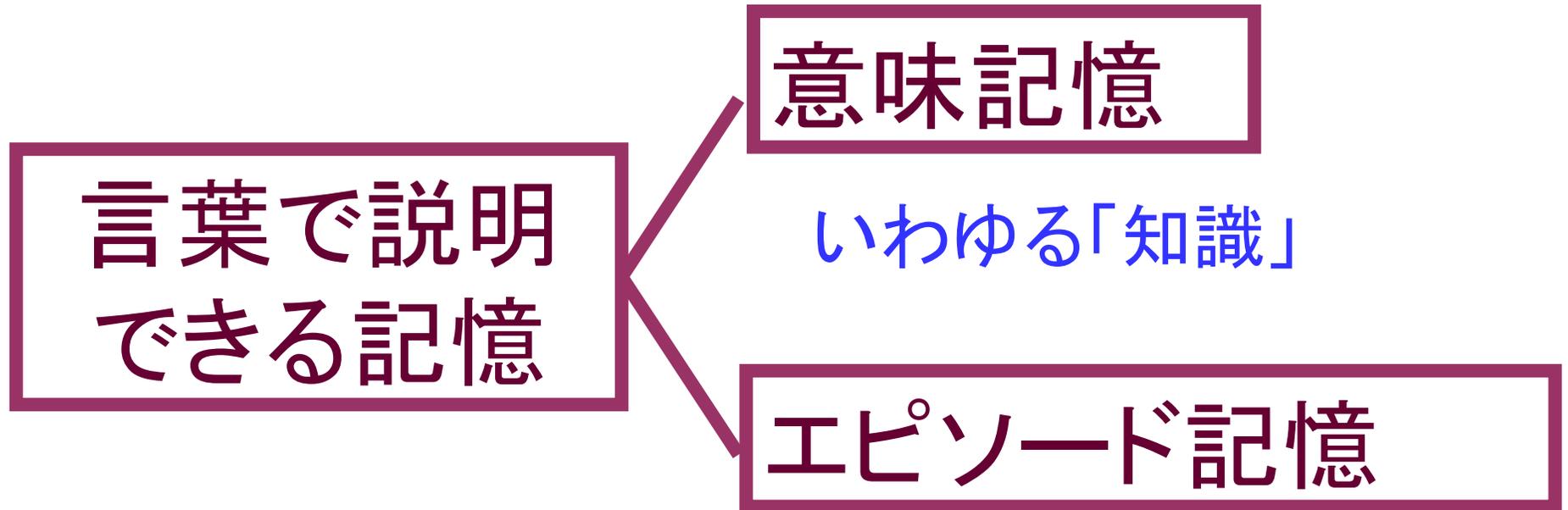
# (1) 被暗示性

- 実際には体験していないのに、体験したかのような気がしてきてしまう。
- 例えば, Bruck, Ceci, & Hembrooke (2002)
  - » 実際にあった体験：叱られた
  - » 実際にはなかった体験：泥棒がはいつた

## ◆ 社会对人的な格差・圧力

Bruck, M., Ceci, S. J., & Hembrooke, H. (2002). The nature of children's true and false narratives. *Developmental Review*, 22(3) 520–554.

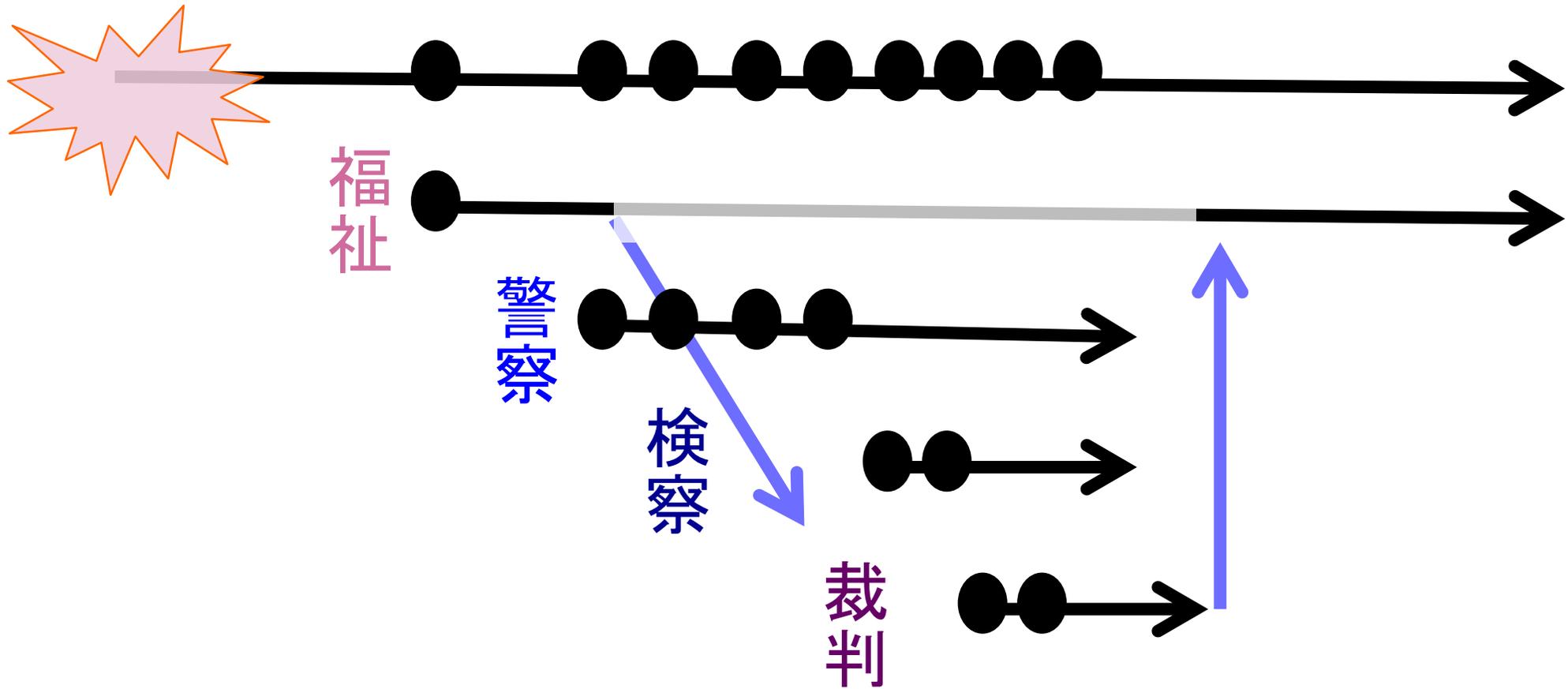
## ◆ 認知的な問題



いつ、どこでがありありと目に浮かぶ

自己への気づき, 情報源の理解, メタ認知  
虐待における繰り返しの問題も・・・

## (2) 精神的二次被害

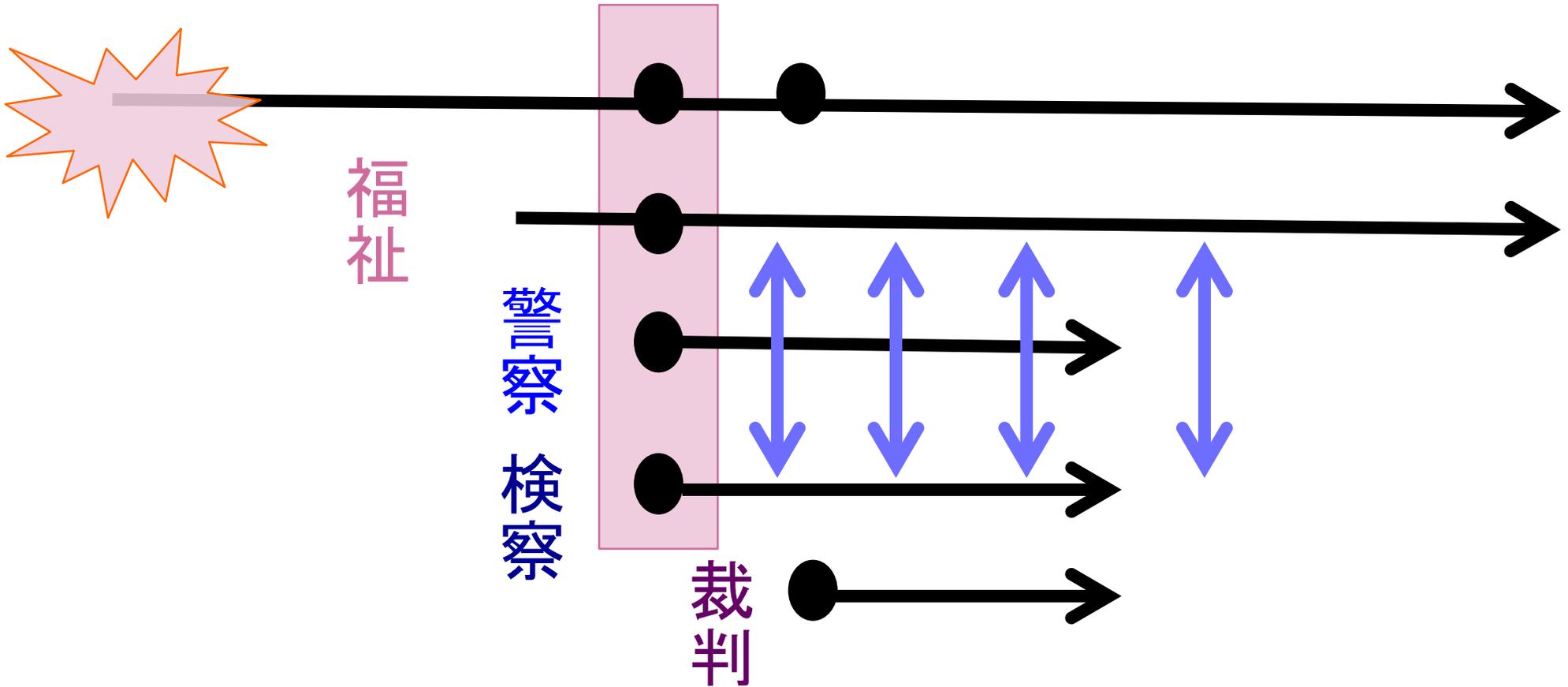


# 法的手続きにより引き起こされる外傷的敏感症状

Litigation-induced Trauma Sensitisation (LITS) Fulcher, G. (2004)

- **聴取の繰り返し**：心的外傷の症状が加算的に悪化
  - ≫ 事件・事故の再体験，類似した状況による不安喚起，過覚醒，精神的／実存的危機
- **継続的聴取**：一部の被害者では，以前はなかった症状
  - ≫ 後外傷的症状：フラッシュバック，悪夢，うつ，思考の回避，孤立，愛情を感じられない，楽しめない，無力感，過覚醒，睡眠障害，怒り，注意集中の困難，驚愕反応等
  - ≫ 身体的症状：血圧・心拍上昇，過呼吸，筋緊張，吐き気，下痢

Fulcher, G. (2004). Litigation-induced Trauma Sensitisation (LITS) -- A Potential Negative Outcome of the Process of Litigation. *Psychiatry, Psychology and Law*, 11(1), 79-86.



2015年10月28日：協同面接，代表者聴取

[http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji10\\_00006.html](http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji10_00006.html)

## 2. 司法面接の概要

### 自由報告と構造

MOGP:Memorandum of Good Practice: MOGP 1992

ABE: Achieving Best Evidence in Criminal Proceedings 2001,2011

子どもへの司法面接 (英国内務省・保健省) 2007

## 英国の「客観的聴取技法」のガイドライン MOGPとABE (Achieving Best Evidence)

Home Office 1992 Memorandum of Good Practice: On video recorded interviews with child witnesses for criminal proceedings. London.

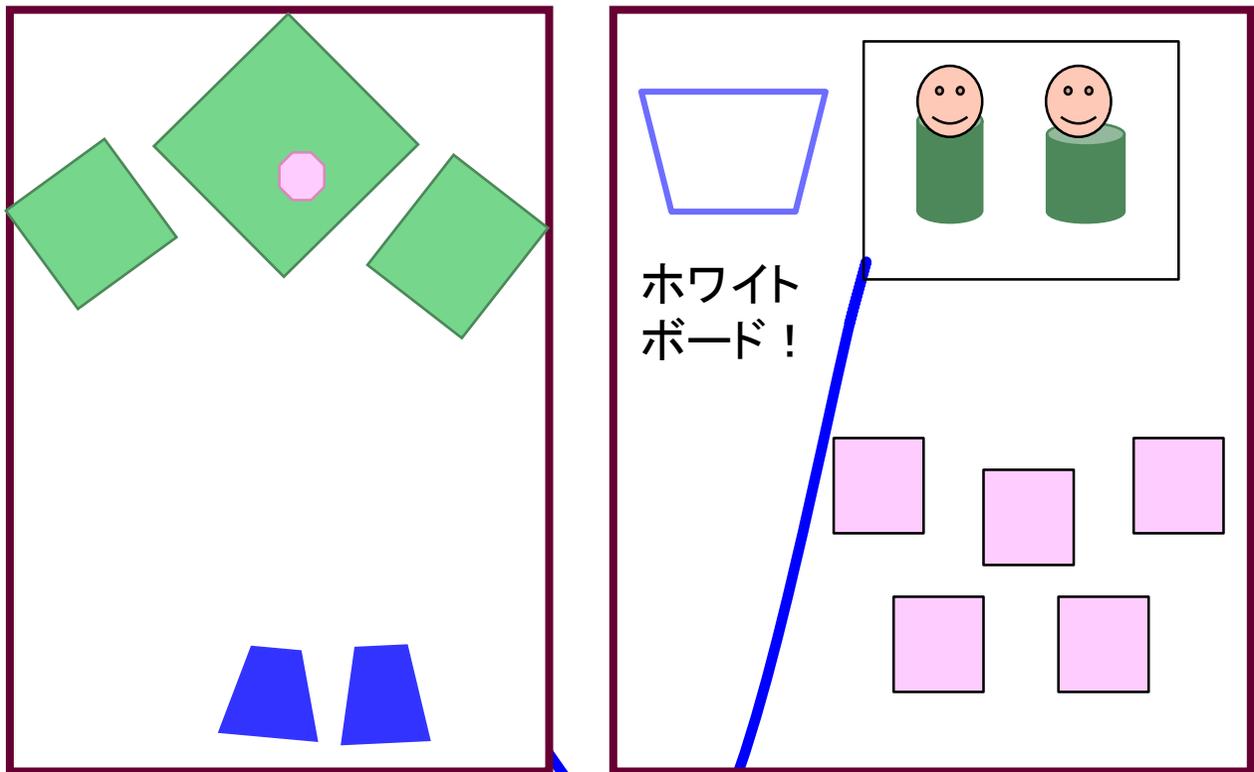
[https://www.cps.gov.uk/sites/default/files/documents/legal\\_guidance/best\\_evidence\\_in\\_criminal\\_proceedings.pdf](https://www.cps.gov.uk/sites/default/files/documents/legal_guidance/best_evidence_in_criminal_proceedings.pdf)

英国保健省・内務省(編).(2007)仲真紀子・田中周子(訳)子どもへの司法面接:ビデオ録画面接ガイドライン. 誠信書房.

# 目的

- 早い時期に、自由報告を重視した面接を【原則として】1度だけ行い、【原則として】ビデオで録画する。
- 必要な情報を客観的に聴取する/カウンセリングではない。
- 供述の変遷と二次被害を防ぐ。
- トラウマ症状により司法面接が難しく、時効となった例がある。治療により、証言が変わるという指摘もある。どうすれば被害者が保護され、有用な証拠が得られるか。
- 司法面接は障がい等を有している人々に適用できるか。また、子どものみか。司法面接のスキルを成人被害者の通常の事情聴取に取り入れることはできるか。

# 典型的な司法面接室



一対一で面接し、  
録音録画

バックスタッフ(多機関連  
携チーム)が観察・支援

- **いつ:**発覚から1wk以内程度で
- **どこで:**中立・安心できる場所で
- **誰が:**トレーニングを受けた人がチームで(子どもの心理の専門家を含む)
- **どのように:**
  - 計画を立て
  - 司法面接の方法で
  - 年齢×5分程度
  - 録画面接



司法面接支援室

# 自由報告と構造

- 挨拶・グラウンドルール・ラポール形成
- 自由報告
- 質問
  - オープン質問
  - WH質問
  - クローズド質問
  - 確認質問
- クロージング

- ✓ 本当にあったこと
- ✓ わからない
- ✓ 知らない
- ✓ 間違ってる
- ✓ 全部話して

- ✓ 何があったか最初から最後まで全部話して
- ✓ そして、それから
- ✓ そのことをもっと話して

Memorandum  
of Good  
Practice:  
MOGP  
1992

# NICHD プロトコル

(National Institute of Child Health and Human Development)

1. 導入
2. グラウンドルール
3. ラポール
4. 出来事を思い出す練習
5. 自由報告 (本題への移行)
6. 出来事の分離(1回か) 7. オープン質問
8. 【ブレイク】
9. WH質問, 10. クローズド質問
11. 確認質問 (脅し・目撃者, 開示, 問題)
12. クロージング
13. 終了

- ✓ 本当にあったこと
- ✓ わからない
- ✓ 知らない
- ✓ 間違ってる
- ✓ 全部話して

Lamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201–1231.

# NICHDプロトコル revised

(National Institute of Child Health and Human Development)

1. 導入
2. ラポール
3. グラウンドルール
4. 出来事を思い出す練習
5. 自由報告 (本題への移行)
6. 出来事の分離(1回か) 7. オープン質問
8. 【ブレイク】
9. WH質問, 10. クローズド質問
11. 確認質問 (脅し・目撃者, 開示, 問題)
12. クロージング
13. 終了

- ✓ わからない
- ✓ 知らない
- ✓ 間違ってる
- ✓ 本当にあったこと
- ✓ 全部話して

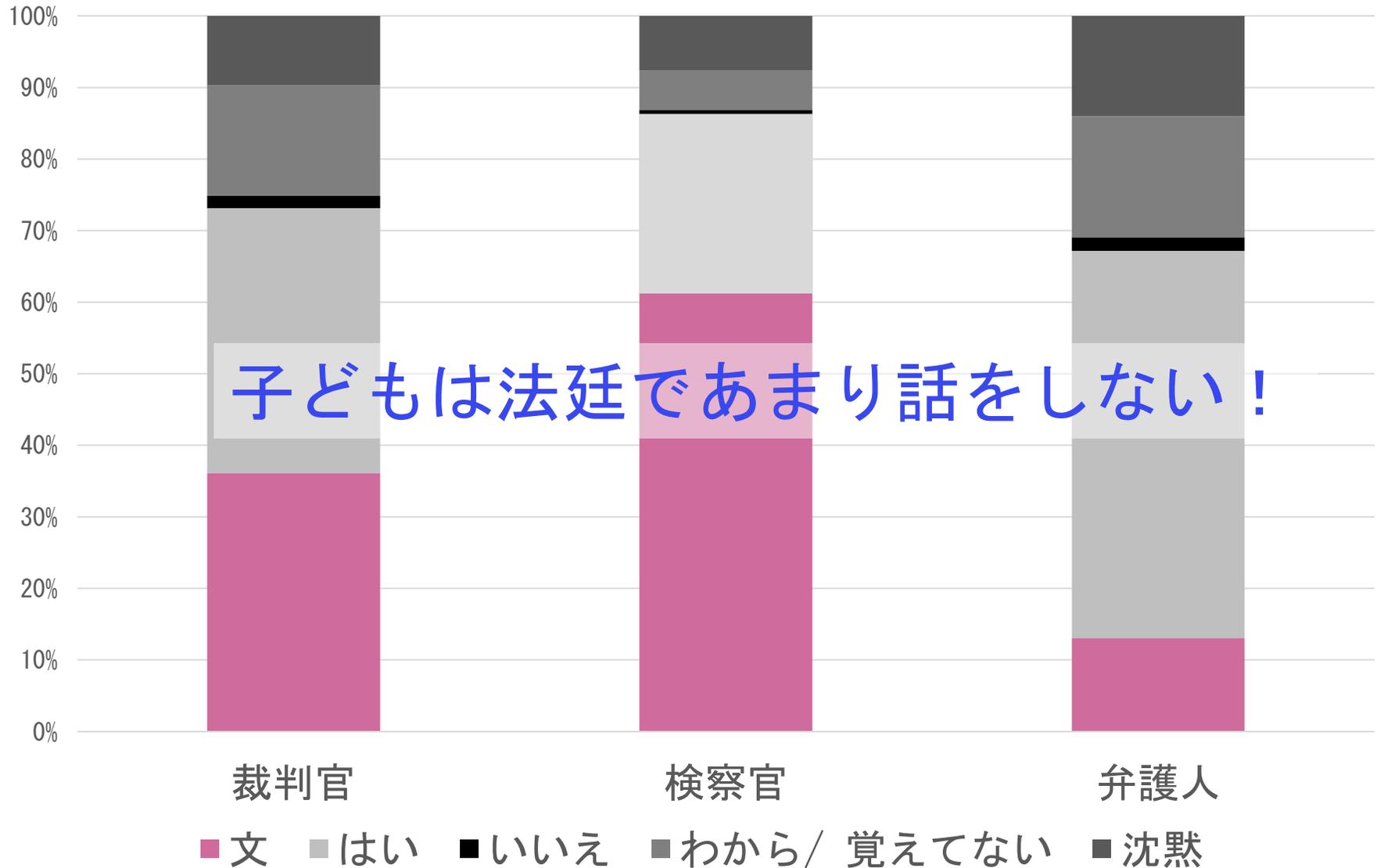
参考 (監査等)

- ・ 被害者
- ・ 被疑者
- ・ 目撃者

LamHershkowitz, I., Lamb, M. E., & Katz, C. (2014). Allegation rates in forensic child abuse investigations: Comparing the revised and standard NICHD protocols. *Psychology, Public Policy, and Law*, 20(3), 336-344.

### 3. 参考：法廷での子ども

# 法廷での子どもの証言 (仲, 2001) 790発話を分析



# 英国での録音録画の使用を参考に

## OLD BAILEY

刑事法廷 2018. 3

英国Old Baileyの中に・・  
(特別の入り口から入る)

待合室

尋問を受  
ける部屋

ここちよいソファ  
カラフルな  
クッション

モニター  
50cm角くらいの机  
紫の椅子3つ  
(子ども, 仲介者,  
立会人)



# 英国の刑事裁判で：9歳の目撃者

## 1日目【主尋問】裁判官から陪審員に

- 参考人（ジョン:仮名）は9歳であり，子どもから話を聞くのはたいへん難しい。そのため特別措置により供述を録音録画している。
- 面接は，特別の部屋（司法面接室）で行われた。
- 面接はABE（司法面接ガイドライン）に沿って行われた。最初にiPadが出てくるが嘘と本当を区別するための課題である。子どもは宣誓しない。仲介者（Intermediary：女性の児童精神科医）が立ち会っている。
- これから録音録画を見るが，そこにいる証人の話を聞くように聞いてください。プレイバックはしないので，注意を集中して聞いてください。

## 【翌日の反対尋問】裁判官から陪審員に

- 明日は10時半からジョンの面接（反対尋問）を行うが，仲介者が面接は20分程度と言っている。遅刻しないように。

- ジョンは別の部屋（閉回路システム）で面接（反対尋問）を受ける。そこには仲介者，付添人がいる。
- 閉回路システム：ジョンはこのシステムを経験をしており，どのように機能するか知っている。
- 録音録画：ジョンは，ABEの録音録画を直前に見ている。

### 【翌日の反対尋問】裁判官が検事，弁護人に

- 自己紹介：私達は自己紹介しないことが多いが（普通は「こちら〇〇先生」などと紹介してもらおう），子どもにはファーストネームで自己紹介したほうがよい，3人で順番に自己紹介しよう。
- 尋問方法：仲介者は20分と言っている。言葉がわかりにくかったら言い直してくれる。休憩を多く取ろう。
- 写真：検事から「部屋の写真を示すのは精神的によくないかもしれない」と提案があり，白黒の図面だけを用意しておくこととなった（結局，使わなかった）。

## 2日目【反対尋問, 補足の主尋問と反対尋問】

- 裁判官, 検事, 弁護人はかつらをはずしガウンをとった人もいた
  - **グラウンドルール:**
    - » **本当のことを話す。**
    - » 質問がわからなければ**わからない**という。
    - » 知らないことは**知らない**という。**推測**では話さない。
    - » 覚えていないことは**覚えていない**という。
    - » **休憩を頻繁にとるので, 言ってほしい。**
    - » **質問や言いたいことがある**であればintermediaryでも誰にでも言う。
  - **時間:** 10時半に陪審員入室, 開始は10:45分。
    - » 20分尋問, 5分の休憩 (実際15分)。
    - » 15分尋問, 再度2度目の休憩。
    - » 尋問開始後「トイレに行きたい」。5分位待つ。
    - » 12時15分に終了。(90分中正味**60分くらい**)
- ◆ 尋問者は終始ゆっくり, はっきり, 間をとり, 短い質問
- ◆ 子どもはリラックス
- ◆ 最後に裁判官は「どうもありがとう」

## 参考：DVDの証拠採用

(北海道新聞, 2016年12月19日朝刊)

旭川, 高松, 徳島, 那覇の4つの地裁では, 子どもに対する虐待や強制わいせつ事件の公判4件, 高松地裁丸亀支部では傷害事件2件で, 検察側が被害者の証言を録音録画したDVDを証拠として提出し, 裁判所が採用していた。

- 判決は2014-2015年, いずれも有罪
- 被害者は, 事件当時7~14歳

検察側が被害立証のためDVDを証拠として提出, 弁護側も同意し, 証人尋問は行われなかった。

高松, 徳島, 高松丸亀支部では検察官が概要を読み上げ, 旭川, 那覇では一部を再生, 旭川では裁判官, 検察官, 弁護人がモニターを見ながらイヤホンで音声を聞き, 被告人にはモニターを見せずに音声だけを聞かせた。

## 参考：尋問による二次被害

(朝日新聞2015.5.16 京都版 中村葉子検察官)

当時7歳だった女兒に6時間以上もの証人尋問が行われ, 深刻な二次被害が生じました。

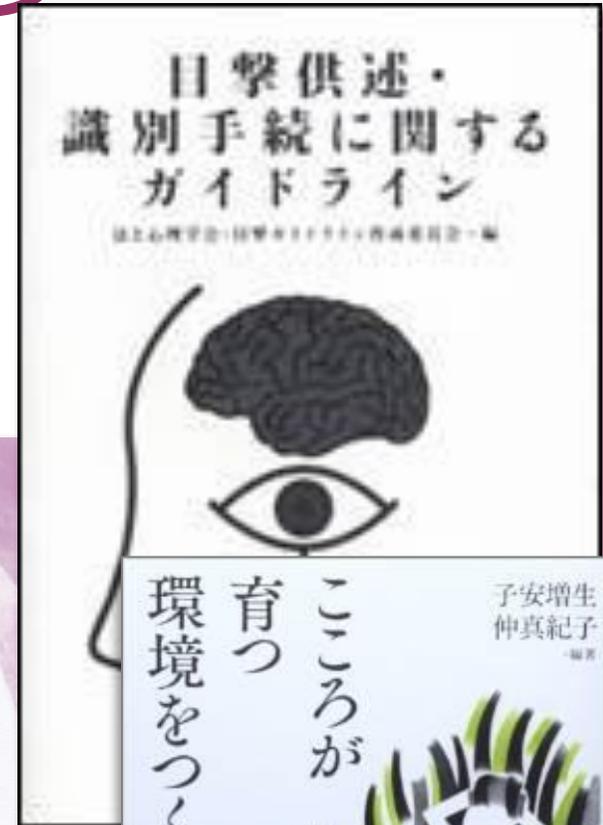
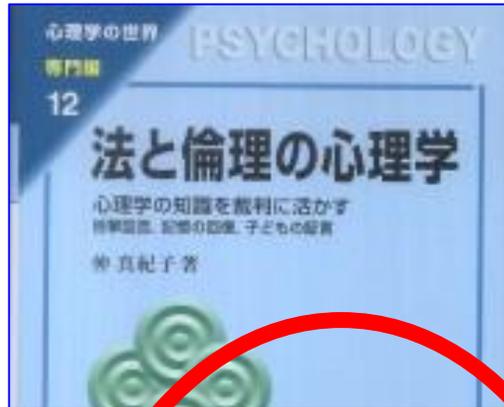
女兒は, 黒い影に追われる夢や, たくさんの足に踏みつぶされる夢などになされ, 授業中に頭痛や吐き気  
の症状に悩まされ, 恐怖心から学校のトイレに入れ  
ないなど生活に支障を来した  
のです。..

## 参考文献

- アルドリッジ・ウッド（著）仲真紀子（編訳）（2004）. 子どもの面接法：司法における子どものケア・ガイド. 北大路書房.
- 英国内務省・保健省（編）仲真紀子・田中周子（訳）（2007）. 子どもの司法面接：ビデオ録画面接ガイドライン. 誠信書房
- ブル, R. 他（著）仲真紀子（監訳）（2010）. 犯罪心理学 - ビギナーズガイド：世界の捜査, 裁判, 矯正の現場から. 有斐閣.
- セーデルボリ, A-C他（著）仲真紀子・山本恒雄（監訳）リンデル佐藤良子（訳）（2014）. 知的障害・発達障害のある子どもの面接ハンドブック：犯罪・虐待被害が疑われる子どもから話を聞く技術. 明石書店.
- Fulcher, G. (2004). Litigation-induced Trauma Sensitisation (LITS) A Potential Negative Outcome of the Process of Litigation. *Psychiatry, Psychology and Law*, 11(1), 79-86.
- Kebbell, M. R., & Johnson, S. D. (2000). Lawyers' questioning: The effect of confusing questions on witness confidence and accuracy. *Law and Human Behavior*, 24, 629-641.
- Lamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. (2007) A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. *Child Abuse and Neglect*, 31, 1201-1231.
- ミルン, R. ・ブル, R. 著. 原聡(編訳)(2003). 取調べの心理学-事実聴取のための捜査面接法. 北大路書房.

- 仲真紀子 (2020) 子どもの話を聴くための手法と実践例—司法面接の技法をいかして 第3回 口の重い子どもに向けて. 家庭の法と裁判 第24号 2020年2月, pp130-136.
- 仲真紀子 (2019). 少年の認知特性と司法面接—法と心理学の観点から. 山口直也(編著). 脳科学と少年司法. 現代人文社 pp.32-49.
- 仲真紀子 (2017). 実務における司法面接の課題：非開示にどう取り組むか. 心理学評論, 60(4), 404-418.
- 仲真紀子 (2016). 子どもへの司法面接：考え方・進め方とトレーニング. 有斐閣.
- 仲真紀子. (2011). NICHDガイドラインにもとづく司法面接研修の効果. 子どもの虐待とネグレクト, 13(3), 316-325.
- 仲真紀子 (2010). 発達障害をもつ人の記憶と面接. 浜井・村井 (編著) 発達障害と司法：非行少年の処遇を中心に (龍谷大学矯正・保護研究センター叢書第11巻) 現代人文社.
- Perry, N. W., McAuliff, B. D., Tam, P., Claycomb, L., Dostal, C., & Flanagan, C. (1995). When lawyers question children: Is justice served? *Law and Human Behavior*, 19, 609-629.
- Walker, J. A., & Hunt, J. S. (1998). Interviewing Child Victim-Witnesses: How you ask is what you get. In C. P. Thompson, D. J. Herrmann, J. D. Reod, D. Bruce, D. G. Payne, & M. P. Togli (Eds.), *Eyewitness memory: Theoretical and Applied Perspectives* (pp. 55-87). NJ: LEA.

# 参考：ガイドライン



# 参考：司法面接に関する情報

- 司法面接支援室

<https://forensic-interviews.jp/training/>

- 北海道大学，立命館大学において，日本科学技術振興機構（JST），文部科学省科学研究費補助金新学術領域の支援を受けて実施したプロジェクトのHPです。

- 立命館大学司法面接研修

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/forensic/>

- 上記成果を受けて，立命館大学事業として司法面接研修を提供しています。

- 司法面接研究会

<https://japan-forensicinterview.jimdosite.com>

- 公益社団法人日本心理学会の助成を受けて実施している日本心理学会会員（心理学者等）による研究活動です。